**２０２３年７月28日(金)　市民交流センター会場**

山田真砂年

胸突きの磴をのぼれと道をしへ 石田経治

ななふしの大きく跨ぐ夏の草 田中幸子

炎昼やアイドリングのディーゼル車 秋澤夏斗

雲湧ける峰々を真向きに凌霄花 北杜　駿

〇 炎天や地図には見えぬ上り坂 山本よしえ

増山叔子

氷室なる蕾の固き花の束 田中幸子

蟬時雨氷室稲荷の四手揺るる 武居玲子

炎天や地図には見えぬ上り坂 山本よしえ

〇 青東風や錫の器に海のもの 石田経治

行く夏や風穴霧の立ち渡り 武居玲子

星のミラ

胸突きの磴をのぼれと道をしへ 石田経治

雲白く遊子Tシャツ半ズボン 井上　基

炎天や地図には見えぬ上り坂 山本よしえ

〇 青東風や錫の器に海のもの 石田経治

いただきし地図よりいつそ道をしへ 井上　基

木代爽丘

病得て後の一年夏うぐひす 増山叔子

坂多き街も青嶺ももとのまま 井上　基

雲白く遊子Tシャツ半ズボン 井上　基

〇 炎天や地図には見えぬ上り坂 山本よしえ

馬場跡を蜥蜴の走る亭午かな 秋澤夏斗

井上　基

縁側はもとよりすずし虚子旧居 北杜　駿

馬場跡を蜥蜴の走る亭午かな 秋澤夏斗

雲湧ける峰々を真向きに凌霄花 北杜　駿

〇 道をしへ大手門より登城せり 山本よしえ

ななふしの大きく跨ぐ夏の草 田中幸子

髙橋庸夫

胸突きの磴をのぼれと道をしへ 石田経治

斑猫を探し求めて道を聞く 星のミラ

帰省子となりて降り立つ小諸駅 井上　基

〇 道をしへ六尺後を虚子の道 山田真砂年

道をしへ参拝をして天守へと 山本よしえ

山本よしえ

〇 青東風や錫の器に海のもの 石田経治

里山に続く一筋道をしへ 髙橋庸夫

夏蝶や黒門の扉の釘隠し 秋澤夏斗

濃く淡く万緑堀を覆ひ切る 木代爽丘

鉢の蓮開く朝の山の駅 秋澤夏斗

秋澤夏斗

蟬時雨氷室稲荷の四手揺るる 武居玲子

炎天や地図には見えぬ上り坂 山本よしえ

分蘖の青田に万の雨の粒 石田経治

道をしへ大手門より登城せり 山本よしえ

〇 的の矢を取りにゆきたる白日傘 増山叔子

武居玲子

〇 炎天の底に村あり氷村 山田真砂年

夏霞富士八ヶ岳はるかあの辺り 木代爽丘

古城址に藍一色の四葩かな 木代爽丘

胸突きの磴をのぼれと道をしへ 石田経治

遊ぶ子の影は濃かりき青胡桃 石田経治

田中幸子

〇 炎天の底に村あり氷村 山田真砂年

行く夏や風穴霧の立ち渡り 武居玲子

古城址に藍一色の四葩かな 木代爽丘

坂多き街も青嶺ももとのまま 井上　基

道をしへ六尺後を虚子の道 山田真砂年

北杜　駿

山百合の蕊をくすぐる朝の風 石田経治

遊ぶ子の影は濃かりき青胡桃 石田経治

炎天や地図には見えぬ上り坂 山本よしえ

青東風や錫の器に海のもの 石田経治

〇 いただきし地図よりいつそ道をしへ 井上　基

石田経治

鉢の蓮開く朝の山の駅 秋澤夏斗

尊虚子のいほりすずしく彳(たたず)める 北杜　駿

炎天や地図には見えぬ上り坂 山本よしえ

〇 的の矢を取りにゆきたる白日傘 増山叔子

雲湧ける峰々を真向きに凌霄花 北杜　駿